

公益社団法人 日本山岳・スポーツライミング協会

令和3年度第12回 Web 理事会・議事録(抄録)

日時：令和4年2月10日(木)14:00~17:30

場所：Web会議

出席者：丸会長、亀山、小日向副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、六角、青山、水村、栗田、水島、野村、安井、小竹、笹生、原各理事
中島、古屋各監事、同席者：赤尾事務局員

1. 開 会

2. 会長挨拶

いつもご苦労様です。この2、3か月で大きな動きがありました。2月に山岳スキー競技日本選手権黒部・宇奈月温泉大会が認められて、開催されることになりました。理事の皆様も、ぜひご参加ください。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3. 会議成立状況報告

理事数 24名中23名出席

監事数 2名中2名出席

4. 議 題

議案第1号 議事録の承認について

事前送付された2021年度第1回理事会議事録に関して全員異議なく承認された。

議案第2号 山岳スキー強化計画について

笹生山岳スキー委員会委員長から、配布資料を基に説明がされた。

1.当内容は、ガバナンス委員会のチェックがされている。

2.当内容はJOCの強化指定と連動していない。

本件の承認は、これに先立つ常務理事会でおこなわれており、今回承認になった。

議案第3号 2023年 IFSC BWC 開催承認について

村岡常務理事から、配布資料を基に説明がされた。

義務について、コロナ禍の場合どうなるかを確認するとともに、丸会長サインで進める予定。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし。議長を除く22名全員

賛成。

議案第4号 2023年後期登山奨励金登山隊

小野寺専務理事から、配布資料を基に説明がされた。チャラクサ谷 K7、ガッシャブルム VI 峰隊登山の奨励金審査の承認申請。

濱田常務理事から、

最近同じ人からの申請が多いようです。傾向として、申請件数が伸び悩んでいますか。

回答：対象が先鋭的な山登りということもあり、正直なところ、申請件数は限定されてきて

ている。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし、議長を除く22名全員賛成。

議案第5号 岩手県/盛岡市との連携協定について

佐賀県の話聞いた岩手県が連携協定を提示してきた協定書。

安井理事から

岩手県も協力的ですので、当協定書を締結することは問題ありません。

丸会長から

地方自治体との関係強化という点で、葛飾、佐賀に次いで第三号となる。地方自治体との連携は、企業がCSRへの貢献手段として協賛金を出すことについて見直しがかかり下火になってきている中一つの有力な方法です。地方からの助成を仰げる手段のひとつですので、こういう活動にもご理解ください。5-10年後を考えたときに重要な協定と認識しています。

山本理事から

当件について問題ありません。賛成したいと思っています。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし。全員賛成(22名)。

議案第6号 JMSCA加盟団体振興推進PT設置要項(案)について

亀山副会長から、配布資料を基に説明がされた。

JMSCAと地方の岳連、国体団体との関係が希薄になっていくなかで、各岳連が直面している

いくつかの問題を共有し、改善に向けた活動をとれるために設置要項(案)ができたので共有します。今後、会長が、リーダー、副リーダーを任命するとともに、人的、財政的、地域的な問題を含め問題点を収集して、常務理事会に報告していきます。

原理事から

全国の中で徳島のように大きくない岳連の意見が反映できればと思い、ぜひ参加したいと思います。

水島理事から

すべて常務理事会に報告とあるが、理事会では報告されないのか。

回答：理事会に報告した方がよいと思われる内容については、現在と同様、随時理事会に報告していきます。

丸会長から

当PT設置のきっかけは某岳連の問題だったが、経済的、人的問題等についても聞いています。法人化を含めた問題もあるので対応していきたい。重要なのは、機動力と即効性で、いくつかの団体から情報収集を始めており、早い対応が必要になってきています。

中島監事から

当PTは、現状の問題をまとめる諮問機関のような機関で、改善活動の執行は別途委員会等で行われるとみればよいのか。スケジュールはどうなっているのか。予算化はされているのか。

回答：PTが独断的に進めることはしません。今年秋ぐらいまでに形づくりをし、情報収集し、来年前半ぐらいまでに方向性をまとめ提案をしたい。また、お金はどれくらいかかるか不明なので、来期の予算に組み込まれておらず、必要になったときに、各委員会と協議し随時補正予算を検討するかたちで対応したい。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし。全員賛成(22名)。

議案第7号 令和4年度事業計画方針案について

小野寺専務理事から、配布資料をもとに説明がされた。

今回は、3月10日の理事会で正式承認される前のドラフトということで配布した。総括は、昨年と同じものを踏襲し一部追加しています。計画については、委員会の議事録からそのまま内容もってきたものや、委員会で協議決定された内容と異なっているなどの齟齬が一部ありました。訂正はしておきます。次回理事会でご承認をいただく予定ですので、内容変更が必要であれば、2月末日までに、メール等でご連絡ください。

議案第8号 三井ダイレクト損保からのご提案

ついて

小野寺専務理事から、今提案(山岳共済会の代理店である瀬田工業と三井ダイレクトとの契約)になることの説明があった。続いて、蛭田常務理事が、三井ダイレクト損保の概要と改善方向について説明を行った。会員を増やす方法として、三井ダイレクト損保のアドバイスにより、日山協山岳共済会のホームページを変更すること、Googleでの検索結果でJMCSAを優先的に表示するような変更も考慮されていること、三井ダイレクト損保は、アンケートを通じ一般顧客(特にシニア)の声を聞けるので積極的な改善提案をしてきていること等、今回、メールで、関連資料を送付しているので、参考してください。

栗田理事から
検索のキーワードをもとに、検索結果が上位に表示をさせるのはそれほどむずかしいのではないようです。保険のプロとしてやっていただき、数値効果もだしていただければと思います。”新規“という言葉がキーワードにして、その意識づけができるようにアナウンスするとよいと思います。

水島理事から
ホームページを見やすくし、利便性を高めるためにはお金がかかるのではないかと。変更自体を反対しているわけではないが、当変更による具体的な費用と期待する効果ある程度明確にした方がよいのではと思う。

回答:まず、前年の実績である50,000件にもってきたい。一方で、メンバーや、都岳連の保険加入者数は増えているので、負けないように何とか頑張りたい。

丸会長から
共済会に入会し、保険に入ったその瞬間、保険が有効となるようなしくみをしてほしいとお願いしている。ホームページを変えるのが最終目的ではなく、その変更を通じて件数が増えることが目的。ホームページ変更はその改善のためのアクションプランの一つとしてとらえ、多少お金がかかることはやむをえないと認識している。

当内容についての採決結果

反対なし、棄権1名(保険会社勤務なので)。賛成(21名)

笹生理事

共済会入会による他のメリット(夏山講習会の減額、自然保護委員会観察会の参加等)も、強調してはどうか。

回答:今後各委員会にお願いいたしますので、よろしくお願ひします。

前田常務理事から

共済会員については、すでに一部のイベントで安く提供しています。

議案第9号 事務局の室内改造(フリーアドレス)について

小野寺専務理事、丸会長から目的を説明。現在事務所には、7-8名が常駐しているが、将来的には倍の16名くらいが当事務所内で業務することになる。席は固定ではなく、PCはロッカーに入れるようにしておき、来社次第空いている席を使用するイメージにしたい。現在、購入する備品を含め見積もり等を入手している。委員会のメンバーが、夕方以降に来局し資料作成等をおこなっているが、心おきなく作業できるような環境にしたい。

今の事務所体制では、人員増に伴いもう一部屋を借りること(月50万の費用増)が、必要になってしまうので、これを避けるために空いている席があったら誰でも使えるような環境にする。データの保管についても、クラウド化による外部からのアクセスを可能にし、リモートで業務遂行ができるようにしたい。その結果旅費の削減も可能となり、全体の経費削減につなげられる。

水島理事から
どのくらいの費用を見込んでいるか。変更によっては現状回復費用もかかるのでは。

回答:費用として400万~500万円を想定。今後詳細を検討したい。

相良常務理事から
今回新規に構築した費用は何割かが固定資産になる。固定資産は通常予算と異なり、予算計上されない。一方で引越越し費用や、備品等を除却すれば廃棄費用になる。全体で500万円以下に何とか収めたい。

中島監事から
次回3月理事会までに、全体の費用見積もりを出し、予算承認時に提案すればよいでしょう。結果として見積もりの提出を次回の理事会で行い、全体予算と合わせての審議のうえ承認の方向になった。

議案第10号 令和5年勲章および褒章候補者の推薦について

小野寺専務理事から配布資料を基に、JSPOからきている候補者としての資格、要件の説明がされた。今年3月1日までに推薦が必要。

丸会長から
SCのオリンピック大会への招致や、JMCSAとして、山岳とSCの融合等の実績が顕著な八木原さんを推薦してはどうかでしょうか。八木原さん推薦の方向で採決します。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし。全員賛成(22名)。当結果をご本人に通達し、受けていただけるならば推薦する。

議案第11号 令和4年予算案について(追加)

相良常務理事から配布資料を基に現行の数値状況の説明があった。

昨年と比べ収益は、+7800万、支出は約+1億円増、収支差ではマイナス5000万円となっている。共済会3400万、協賛金1億4500万、補助金9400万が主な収益源。正会員会費は減っている。気になる点としてSCの収支差が大きい。

小野寺専務理事から
昨年は1900万の赤字、今年も赤字予算になっている。検査を関係者に依頼している。登山部はこれまで以上減らすというのには無理と認識している。

古屋監事から
3月初の時点で収支プラスマイナスゼロが望ましいが、収入は現行から増えず限られてくるので、おのずと支出を減らすしか方法がない状況ではないかと。

小野寺専務理事から
費用削減については、すでに予算委員会でも協議しているが、理事会メンバーにも、予算案に目を通していただき、費用が多いところの委員会を減らせるものも減らしてほしい。それができなければ、一律でX%削減という方法をとらざるを得ない。

丸会長から
スポンサー収益ということで1億4500万は確定したが、一方で、昨年のレヴェニューシェアが3000万円だったものが700万円になっている。理由のひとつとして放送用映像費4200万円が多いように見える。少しでも削れる可能性はないでしょうか。

回答:設備映像作成費用を減らすのは難しい。別の系統で放映していき、レヴェニューを増やしていく方がよいかもしれない。

濱田常務理事から

当協会はオリンピックメダルの数の割に、補助金が少ない。種目数増、7年後の正式種目化、アウェイでのオリンピック開催などを背景にし、申請金額を増やしたい。資金ショートが発生する場合には、優先順位を鑑みて一部の大会をやめるなど個々に判断していく。

栗田理事から

増額の理由の一つであるアウェイでのオリンピック開催について、説明をお願いできればと思います。

安井理事から、

アウェイのオリンピック開催とは、次回のパリオリンピックの本拠地を探るための活動や、補助スタッフ8名の費用のことで、今年準備のために例年よりかかる見込みである。現状では、旅費、謝金が増えている。上位選手強化費用が提供されているが、ピラミッドの下の方の選手は旅費等は自己負担。実際は、6000万くらい自費負担している。強化費は、2月後半ご申請、6月に決定となっていてわかりづらい部分はあるが、補助金もまだいた分は執行できるようにしている。

小野寺専務理事から

JOCの協会費用申請の結果、より補助金額が多くなることが半明したら、その時点で補正予算を組めばよい。ただ、赤字数千円は大きいので何人かの理事の方に、SC関係の技術、強化、大会運営にかかわる旅費、交通費減などを願っている。

丸会長から

あるスポンサーは、協賛金額は、1700万円で、基準(2500万円)にとどかないが、物品供与をしていただき、会社名を全面的にユニフォームやFBで出せるので露出度を高められ魅力として売り込めた実績がある。今後、山岳スキーやアイスクライミングの大会が増えることで、シルバーやブロンズスポンサーも、開拓できるので、皆さん方の力を是非お借りしたい。

村岡常務理事から

SCの収益改善のために、大会(BJC、ユース大会)参加料の値上げや、謝金、旅費のコスト削減、3回目ワクチン接種者はPCR検査の免除するなどいくつかコスト削減活動もおこなっている。

小野寺専務理事から

今まで協議した予算の現状を全国理事長会議でどこまで話したらよいのか。

中島監事から

1年に1回なので、現状をそのまま話して、JMCSA本体の懐事情が厳しいことを伝えればよいのでは。

野村理事から

財政支援を望んでいる岳連もあるので、現状を正しく理解していただくために説明した方がよいのでは。

小日向副会長から以下の2点のコメントがあった

1. アシックスがSCに参入したいという意向をもつ

ている。

会場使用などで、お付き合いできる可能性あり。

2. 日本ではSCの選手個人に収入が入り恩恵を受けているよう。国によっては、協会にバックするようなシステムもあるようだが、この話を進めるときには慎重に進める必要がある。

議案第12号 山岳スキーの補正予算について(追加)

相良常務理事から

すでに常務理事会で承認を得ているが、第二次補正予算についての経緯説明が行われた。

協賛金をもらえることになり、当該大会を行うことになった。PCR検査費用が相当かかっている。収入、経費150万で対応するが、マイナス分が出たらスキー委員会でのやりくりで対応する。

特に異論はなく、了解、承認された。

報 告

報告第1号 1月度月次決算報告について

記載省略。議案配布資料を参照してください。

報告第2号 2021年度全国理事長会議について

2月13日に行う全国理事長会議で各岳連からされた質問、要望に対する回答を小野寺専務理事から説明した。その回答案について問題があるようなら指摘してください。

大阪府岳連、福井県山岳連盟、山梨県山岳連盟、群馬県山岳連盟からのQ&Aは特にお題なし。愛知県山岳連盟からの質問で、法人化については、夏山リーダー普及の取り組みについては、別途回答を用意しメール送付することになった。

報告第3号 山岳スキー日本選手権募集経緯について

記載省略。議案配布資料を参照してください。

報告第4号 国体参加都道府県数の改定についてご依頼

小野寺専務理事から配布資料をもとに説明を行った。

岐阜県山岳連盟からグループ分けするのに公平性がないということで、改正の検討ができないか依頼をいただいている。

報告第5号 国体3巡目・意向調査について

記載省略。議案配布資料を参照してください。

報告第6号 理事も業務報告を書いてほしい(会長からの依頼)について

丸会長から

後日フォームを送付しますので、昨年6月から今年1月までの実績を記入後提出をお願いします。理事の方で、当報告を書きたくない場合は書かなくても結構です。

中島監事、古屋監事から

当報告は、重要事項であり監事も見る権利がありますので、見せてください。

また、理事は、代表者の執行状況の監視をしたり、意思表示をすることが重要です。

山口理事から

業務執行理事を監督するのが理事の役割ですので、丸会長が業務実態を知りたいという趣旨はわかりますが、ガバナンスの観点から見ると望ましくないということになります。

丸会長から

それでは、別途方法を含めて相談させていただきます。

その他の意見

現在委員会等でも報告しており、二重の手間になるのではという意見も出た。

当件は保留となった。

報告第7号 JOCコーチ設置事業の改正について

小野寺専務理事から配布資料に基づいて説明がされた。令和4年から制度が変わった。JOC雇い、1NFにハイパフォーマンスディレクターは1名(複数競技でも、代表は1名)ナショナルヘッドコーチや、ナショナルコーチは競技別だが、JOC ナショナルコーチアカデミーのコースを受講していることが条件。今後は、山岳スキーもはいってくるので、SCと協議が必要。

山本理事から

当内容は承知済み。今後の流れとして、推薦候補者を常任理事会に提案、承認されたら、JOCに推薦状を出すという手順になります。

小野寺専務理事からの補足

JOC コーチに対して謝金は払わない。日当は払うが、契約は1年ごと。

兼業はできない契約となっている。

水村理事から

JOC 雇用について、今後謝金制度に移行していくと聞いている。実質稼働状況にあわせて謝金が発生する方向。

報告第 8 号 夏山リーダー認定

蛭田常務理事から、常務理事会で承認されたことが報告された。

報告第 9 号 SC ユーススピード強化選手選考基準について

安井理事から常務理事会で承認されたことが報告された。

報告第 10 号(一社)大阪府岳連名義後援承認について

例年のことであり、内容を読んでおいてください。

報告第 11 号 業務執行理事の職務執行報告

業務執行理事一人一人が事前に用意したフォームにのっとり説明した。

町田理事から

もう少しわかりやすく記入していただけるとありがたい（できれば、達成度が 80%とか。課題は何かなどを記入していただくなど。）

その他 (追加)

古屋監事

毎回理事会が 5 時で終了せず、メディアの記者会見が入り何名かが中座することがよくある。会議の運営方法や、時間帯などを改善した方がよいのではないか（会見を 5 時半からにするとか）。中座ということは、その時間帯で職務を執行できないことになってしまいますので。